

■岩宮武二 国内外で高い評価を受ける日本を代表する写真家。後進を育成する指導者としても活躍。

いわみやたけじ

大暴落・・・1920＝ 鳥取県米子市で、和菓子店(岩宮風月堂)の次男に生まれる。

原敬首相暗殺1921＝ 1歳：

母方の叔父(村上誠三)が市内で写真館を営業し、アマチュア写真家グループの中心になって活動していたことから、写真に身近なものとして育ち、

世界恐慌・・・1929＝ 9歳：

満州事変・・・1931＝11歳：

五一五事件・1932＝12歳：就将小学校卒業。

運動神経が発達していたらしく、鳥取県立米子商蚕学校商業科在学中、野球部の投手として活躍し、

日中戦争始・1937＝17歳：

健保+総動員 1938＝18歳：卒業後、当時としてはモダンな大阪の阪急百貨店に就職して電気器具販売売り場に立つも、

第二次大戦始1939＝19歳：1年で辞め、プロ野球(南海軍)へ入団するも現実は厳しく、二軍捕手を勤めて体をこわし退団。大阪鉄工所資材部に勤める一方、{ミツワ写真倶楽部}で安井仲治・上田備山と知合い、その勧めで関西を代表するアマチュア写真家団体{丹平写真倶楽部}に入会。とくに「流坑ユダヤ」で知られる安井仲治の影響を受け、

大政翼賛会・1940＝20歳：_{丹平写真倶楽部展}で「早春」が、全日写連関西本部展で「時化粧」「館」「月の出」が特選となるが、
日米開戦・・・1941＝21歳：召集されて、全満州戦車第五連隊に入隊となり、機銃手兼無線士として、ソ連との国境付近で警備と訓練に従事、写真を撮れないことを嘆いて、安井仲治に手紙し、その助言により、俳句を始める。

敗戦・・・1945＝25歳：敗戦直前に本土決戦に備えて戦車隊が内地に移動、そのまま敗戦を迎えて復員し、大阪に移る。戦後の混沌に、俳句が拠り所となり、{火星}を主宰する岡本圭岳に入門、俳誌の編集にも従事するうち、写真家として生きて行く決意。結婚し、生活のため、進駐軍相手のDPE店を開業、繁昌するも、

新憲法公布・1946＝26歳：写真家として生きて行く決意。結婚し、生活のため、進駐軍相手のDPE店を開業、繁昌するも、

新憲法施行・1947＝27歳：

三大事件・・・1949＝29歳：

_ショップに同居する菓子部の失火で全焼、全てを失い、やむなく大阪の自宅でDPE引受けて生計、

独立回復・・・1951＝31歳：

この年、井上青龍が入門。瑛九の創立した{デモクラート芸術協会}に参加。「かたち」「京都」のカメラワークを始める。アルス写真年鑑公募に「狂女」で準特選となるも、結核となり、郷里にあった国立米子療養所で右肺成形手術を受けて、療養を続け、

TV放送始・・・1953＝33歳：

自衛隊発足・1954＝34歳：

ようやく退所して、大阪へ戻ると、いよいよ写真に没入。
*{フジフォトコンテスト}に応募、近所で廃品となったマネキン人形を撮影した「マヌカン」がカラーの部金賞、「炭坑夫」もモノクロ・プロの部銅賞となって注目を浴び、{キャノン}のコンテストでも特選、銀座で初の個展を開催するなど、一気に飛躍。{朝日新聞}からの委嘱で佐渡へ取材旅行に出、

55年体制始・1955＝35歳：

国連加盟・・・1956＝36歳：

美智子妃・・・1959＝39歳：

安保闘争・・・1960＝40歳：

全国総合計画1962＝42歳：

TV宇宙中継始1963＝43歳：

東京オリンピック 1964＝44歳：

大学紛争始・1965＝45歳：

いざなぎ景気1966＝46歳：

震ヶ関ビル・1968＝48歳：

_株式会社{岩宮フォトス}創立。全国カレンダー展に「花」を出品し、文部大臣賞。

ハワイ、アメリカへ取材旅行。

{アサヒカメラ}表紙担当。会社を移転し、_コマース業界に対応すべく社名を{I・P}に変更するが、

初の作品集「佐渡」出版。続く「かたち・日本の伝承 I・II」で日本写真協会作家賞。

東南アジア取材旅行。_日本写真協会年度賞。

ヨーロッパ取材旅行。_商業写真でなく作家活動をしたいと、スタジオを手放し、

作品集「京 Kyoto in KYOTO」を出版し、

佐渡へ最後の取材旅行。沖縄取材旅行。*毎日芸術賞。大阪芸術大学美術学科写真専攻の教授に招かれる。

北ヨーロッパ三国取材旅行。胃潰瘍にて胃を切除手術。東南アジア、オセアニア取材旅行。韓国のソウル・慶州へ仏像撮影旅行。再び移転して_岩宮武二写真事務所を開始。「宮廷の庭 I・II・III」で、

芸術選奨文部大臣賞、尼崎市市民芸術賞。

独立した写真学科の学科長に就任。ユネスコから「仏像のイメージ」の撮影を委託され、韓国へ仏像撮影旅行、以後、ライフワークとなる。

全共闘・・・1969＝49歳：

大阪万博・・・1970＝50歳：

トルショック・・・1971＝51歳：

日中国交回復1972＝52歳：

石油ショック1973＝53歳：

角栄金脈辞任1974＝54歳：

ケアンズ事件1975＝55歳：

田中角栄逮捕1976＝56歳：

JALハイジャック・1977＝57歳：

成田衝突・・・1978＝58歳：

革新大敗北・1979＝59歳：

貿易摩擦始・1980＝60歳：

・・・1981＝61歳：

中曽根内閣・1982＝62歳：

ドイツレポート・1983＝63歳：

・・・1984＝64歳：

ジャンボ機墜落1985＝65歳：

竹下内閣・・・1987＝67歳：

リクルート事件・1988＝68歳：

昭和天皇没・1989＝69歳：

「仏像のイメージ」出版のため、第二次アジア取材旅行。

「仏像のイメージ」出版のため、第三次、第四次アジア取材旅行。「世界の人々」「世界の彫刻」出版のため、ヨーロッパ取材旅行。アジア写真連合会議のため、台北へ旅行。

「仏像のイメージ」出版のため、第五次取材旅行。

_全日本写真連盟より功労賞。

「日本のいけばな」で中山文甫に1年間写真撮影協力。_ユネスコから「仏像のイメージ」の英語版「THE IMAGE OF THE BUDDHA」が刊行され、その写真展がアメリカ全土を巡回した後も、自力で撮影を続け、

ユネスコの委託による{現代中国絵画作品展}のため、北京へ取材旅行。大阪芸術大学訪中団に参加。

地中海ヨット紀行。選曆に、俳句・随筆・写真をあわせた「目前心後」を出す。

中国撮影家協会の招待で、中国旅行。映像学会グループに参加して敦煌へ。_人間の顔に興味を持っていたことから、同志を募って写真展{五人展～顔・世界の人々}を企画し開催。大阪芸術賞。

インド・ネパール取材旅行。ヨーロッパ取材旅行。国際交流基金の委託によるアメリカ講演旅行。

インド・ネパール、ヨーロッパ、韓国ソウル、中国桂林と4度の取材旅行。尼崎市に作品9点所蔵される。

中国桂林、ヨーロッパ、韓国と3度の取材旅行。*カレンダー制作で他人の作品を盗用する事態を招いて、新聞ダネとなり、日本写真協会と二期会の理事をはじめ公的な役職すべてを辞任、大学は慰留されて残るが、以後、写真展や審査員依頼は全てなくなり、以後、精彩を欠くようになる。

ヨーロッパ、ラダック・ラマ仏教、ネパールと3度の取材旅行。

インド、ヨーロッパ、インドネシアのボロブドール遺跡と3度の取材旅行。

中国麦積山石窟取材旅行。京都国立近代美術館評議員になる。初の句集「ラダック深秋」、

兵庫県文化賞。_最初の弟子だった井上青龍が奄美で溺死したことに衝撃を受け、まもなく入院、

「仏像のイメージ」の集大成となる「アジアの仏像 上・下」を刊行して日本写真協会年度賞を受賞後、肺癌により、没した。